

「リベリアの白い血」上映後 リベリア人 スティーブンスさんとのトークセッション
(一部抜粋)

司会者 映画の中で分かりづらい場面がありまして、一つ目がシスコとニューヨークで会ったのがリベリア人のジェイコブという人がいたと思うのですがジェイコブ「シスコの名前レッドフォース？一緒だったろ？」という会話はどういう意味があるのですか。

② シスコは反政府側として殺し合いをしたりだとか戦っていたけれど、恐らくジェイコブはシスコから暴力を受ける側、犠牲者側だったのではないかと。だからこそ憎しみがあつたので、ニューヨークでたまたま会った時に嫌がらせをしたのではないかと。

ニューヨークにいるシスコとリベリアではそういう関係性があつたけれども、ニューヨークで会ったときはシスコは後に来てジェイコブが先に来ていたので、シスコを下に見ていたから意地悪をするようなことがあつたと思う。

司会者 ラストシーンはタイヤを交換する場面で終わりましたが、あのシーンはどんな意味があるのでしょうか。

② 私の個人的な見方としては、二つの描写の違いを映し出して、リベリアの状況とアメリカの状況というのを対比させて描いていると思います。特にリベリアのゴム農園で働いているシスコのシーンが流れますが、リベリアは天然ゴムの原材料ラテックスを作っているだけで製品化できていないから原料をヨーロッパやアメリカに送ってプラスチックやゴム製品が作られています。その対比をリベリアとアメリカやニューヨーク、ヨーロッパの違いをゴムの原料か生産物なのかの違いで描いているのかなと思いました。

司会者 ゴム農園で朝から晩まで安い賃金で働いているシスコの手のアップが多かったですね。ゴムを取るシーンだったり、そしてラストシーンはタイヤを替える、あの手こそが監督が最初に言っていた Out of my hand の象徴だと私も感じました。

② 多分そうですね。実は Out of my hand というのはリベリアで日常的に使われている表現で「私はもうこの役目は果たしました」という意味でも日常的に使っている表現です。

司会者 それを聞くとまた違った感想が出てきますね。ありがとうございます。

最後に来年リベリアをホストタウンとして迎えるにかほ市民の心構えがあれば教えてください。

② きっとリベリアから来る選手たちは日本に来ることがとっても楽しみで本当にわくわくしていると思うので、あまり堅苦しくならずオープンな気持ちをもって迎えてくださればとても喜んでくれると思います。

司会者 堅苦しくならず、オープンな気持ちでアットホームに、です！リベリア流の挨拶はありますか？



スティーブンス・モール氏
リベリア共和国出身、ご家族で秋田市に在住。
秋田大学でバイオ化学の研究をされています。

② 握手をして、ハグをします。

司会者 そうなんですね！来年、新型コロナが収まっていたら、ぜひ、ハグで挨拶をしたい
と思います。

2020年12月26日 仁賀保勤労青少年ホームにて

司会者 永田佳乃子氏

通 訳 JICA 秋田デスク 野口聡子氏